

# インフォメーション・コーナー

## 会 告

|   |    |
|---|----|
| ○平成 30 年度農業農村工学会賞の決定について  | 80 |
| ○平成 31 年度農業農村工学会賞候補の推薦について 締切 10 月 31 日   | 80 |
| ○研究部会長の交代について   | 81 |
| ○第 42 回「水の週間」水のワークショップ・展示会について (第 1 報) 8 月 14~16 日開催  | 81 |
| ○サマーセミナー 2018 参加者募集! 9 月 6~8 日開催  | 81 |
| ○「送料」および「振込手数料」のご負担について 8 月 1 日から   | 82 |
| ○平成 30 年度 JABEE 農学系分野審査講習会への参加者募集 (再) ㊦ 申込締切 6 月 15 日   | 82 |
| ○動画募集中! こりゃ映像! 2018 —ミニ動画コンテスト— 応募締切 7 月 31 日   | 83 |
| ○学生会員入会時の特典について   | 83 |
| ○平成 30 年度「研究グループ」の助成希望者募集について (再) 申請締切 6 月 29 日   | 83 |
| ○平成 30 年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について (再) 申請締切 9 月 14 日  | 84 |
| ○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い  | 85 |
| ○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!   | 85 |
| ○平成 31 年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6 月 30 日   | 85 |
| ○「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!  | 86 |
| ○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと<br>2016 年 7 月から 2018 年 6 月までの編集事務局について           | 87 |
| ○平成 30 年度東北支部総会・第 60 回東北支部研究発表会ならびに第 50 回東北支部研修会・<br>第 40 回地方講習会の開催について (第 1 報) ㊦ 11 月 1, 2 日開催 | 88 |
| ○第 69 回関東支部大会の開催について (第 1 報) ㊦ 11 月 7 日開催   | 89 |
| ○第 75 回京都支部研究発表会の開催について (第 2 報) ㊦ 発表申込締切 6 月 30 日   | 89 |
| ○第 73 回中国四国支部講演会ならびに第 42 回地方講習会の開催について (第 1 報) ㊦ 10 月 18, 19 日開催                                | 90 |
| ○土壤物理研究部会第 57 回研究集会の開催について (第 2 報) ㊦ 10 月 26 日開催  | 90 |
| ○農地保全研究部会第 39 回研究集会および現地研修会の開催について (第 1 報) ㊦ 11 月 8, 9 日開催                                      | 91 |
| 農業農村工学会論文集内容紹介  | 92 |
| 農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム (一般参加可) 一覧  | 93 |
| 受入れ図書   | 94 |
| 文献目録  | 95 |
| 学会記事  | 98 |

### 第 86 巻第 7 号予定

**展望:** 土壤物理における水土の知: 取出伸夫

**小特集:** 近畿の農村振興事業と京都支部賞研究紹介

報文: 国営東播用水二期農業水利事業の更新整備と継承の取組み: 田井真和ほか

報文: 京都府における農村集落対策の取組み: 長塩泰治ほか

報文: 「農空間づくり」プランの推進と今後の方向性 (豊能町牧地区の取組み): 日根直哉ほか

報文: 手取川における濁水発生が下流扇状地の農業用水・地下水・生態系に及ぼす影響: 田中健二ほか

報文: 弾性波エネルギー指標に基づく多孔質材料の材質評価法の開発: 島本由麻ほか

報文: サクション制御下における抜根試験および根-土接触解析: 友部 遼ほか

### 技術レポート

北海道支部: 農業高校の生徒による雪冷熱を利用した取組み: 阿部善史

関東支部: 国営大井川用水地区における改築推進工法の施工例: 三木秀一ほか

京都支部: 発電のための豊水水利権の取得: 宮崎雅仁ほか

中国四国支部: 排水トンネルと水抜きボーリングを用いた地すべり防止施設: 正木重雄

九州沖縄支部: 谷川地区ため池改修工事における基礎処理の課題と対策: 平良慶子

**講座:** 農業農村整備のための生態系配慮の基礎知識 (7)

—水田・水利施設の外来生物と対策—: 中田和義ほか

**私のビジョン:** 農業農村工学に対して私ができることは?: 鬼塚健一郎

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

| 開催日            | 主催                 | 行事名                                    | テーマ   | 開催場所  | 掲載号               |
|----------------|--------------------|--|---|-------|-------------------|
| 平成30年6月30日     | 農業農村工学会ほか          | 平成30年度JABEE農学系分野審査講習会 Ⓟ                | —   | 東京都   | 86巻5号             |
| 平成30年9月4~7日    | 大会運営委員会            | 平成30年度農業農村工学会大会講演会 Ⓟ                   | —   | 京都市   | 85巻12号<br>86巻1,4号 |
| 平成30年9月6~8日    | 農業農村工学サマーセミナー実行委員会 | サマーセミナー2018                            | 平成ラストの若手交流,話したいことを話そう~日本の農業とセミナーの今後~                    | 京都市   | 86巻6号             |
| 平成30年10月18,19日 | 中国四国支部             | 第73回講演会・第42回地方講習会 Ⓟ                    | —   | 松江市   | 86巻6号             |
| 平成30年10月25,26日 | 九州沖縄支部             | 平成30年度支部大会 Ⓟ                           | —   | 熊本市   | 86巻4号             |
| 平成30年10月26日    | 土壌物理研究部会           | 第57回研究集会 Ⓟ                             | 土壌環境と気候変動(仮)  | 札幌市   | 86巻5,6号           |
| 平成30年11月1,2日   | 東北支部               | 平成30年度総会・第60回研究発表会・第50回研修会・第40回地方講習会 Ⓟ | —   | 山形市   | 86巻6号             |
| 平成30年11月7日     | 関東支部               | 第69回支部大会 Ⓟ                             | —   | 甲府市   | 86巻6号             |
| 平成30年11月7,8日   | 京都支部               | 第75回研究発表会 Ⓟ                            | —   | 名古屋市  | 86巻4,6号           |
| 平成30年11月8,9日   | 農地保全研究部会           | 第39回研究集会・現地研修会 Ⓟ                       | 未来に繋ぐ農業農村の新しい整備・保全の取り組み(案)                              | 那覇市ほか | 86巻6号             |
| 平成30年11月20~22日 | 農業農村工学会ほか          | PAWEES-INWEPF国際会議 奈良2018 Ⓟ             | Promoting sustainable paddy farming to achieve the SDGs | 奈良市   | 86巻1,3号           |

平成30年度農業農村工学会賞の決定について

平成30年度の農業農村工学会賞は、平成30年5月11日(金)開催の第250回理事会において、学術賞2件、研究奨励賞2件、優秀論文賞3件、優秀報文賞3件、優秀技術賞1件、優秀技術リポート賞7件、著作賞3件、教育賞1件、環境賞1件、国際貢献賞1件、メディア賞1件、功労賞3件、上野賞3件、

沢田賞1件が、決定いたしました。授与式は、来る9月4日(火)に京都市の京都大学吉田キャンパスで行われます。なお、詳細は学会ホームページおよび本誌7月号巻頭平成30年度農業農村工学会大会講演会のページをご参照ください。

平成31年度農業農村工学会賞候補の推薦について

平成31年度の農業農村工学会賞(上野賞、沢田賞を除く)を、募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。

締切は、平成30年10末日です。推薦書様式および授賞規程は学会ホームページをご参照ください。

平成31年度 農業農村工学会賞 募集要項

| 賞の種別   | 学術賞  | 奨励賞   |  | 優秀賞   |                                 |                                 |                                 |
|--------|--|---|--|---|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
|        |  | 研究奨励賞   | 技術奨励賞  | 優秀論文賞   | 優秀報文賞                           | 優秀技術賞                           | 優秀技術リポート賞                       |
| 賞の趣旨   | 農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績   | 農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績  |  | 農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績   |                                 |                                 |                                 |
| 賞の対象期間 | 平成25年10月から平成30年9月までに発表されたものとする。ただし、その5カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。 | 農業農村工学に関する研究業績  | 農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績  | 農業農村工学に関する単独の論文業績   | 農業農村工学に関する単独の報文業績               | 農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の単独の技術業績  | 農業農村工学に関する単独の技術リポート業績           |
| 賞の対象業績 | 原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。   | 平成27年10月から平成30年9月までに発表されたものとする。ただし、その3カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。  | 平成27年10月から平成30年9月までに発表されたものとする。ただし、その3カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。 | 平成29年10月から平成30年9月までに発表されたものとする。   | 平成29年10月から平成30年9月までに発表されたものとする。 | 平成28年10月から平成30年9月までに発表されたものとする。 | 平成25年10月から平成30年9月までに発表されたものとする。 |
| 受賞候補者  |  | 個人  |  | 個人または組織、団体  |                                 |                                 |                                 |
| 推薦の方法  | 正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。                      | 正会員および名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。 |  | 正会員および名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。 |                                 |                                 |                                 |

| 賞の種類    | 著作賞   | 教育賞   | 環境賞   | 歴史・文化賞                                   | 地域貢献賞  | 国際貢献賞  | メディア賞                                  | 功労賞  |
|---------|---|---|---|--|--|--|--|--|
| 賞の趣旨    | 原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をしたと認められる業績    | 農業農村工学に関する教育、技術者の継続教育など質實の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績                                       | 農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績 | 農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し、あるいは研究分析などを行った業績 | 農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績   | 農業農村工学に関する学術または技術について、国際的な交流や調査研究で優れた業績                        | 農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等     | 長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者 |
| 賞の対象期間  | 平成20年10月から平成30年9月までに発表されたものとする。                                       | 平成25年10月から平成30年9月までに行った活動とする。   | 平成28年10月から平成30年9月までに行った活動とする。   | 平成25年10月から平成30年9月までに行った活動とする。            | 平成25年10月から平成30年9月までに行ったものとする。  | 平成25年10月から平成30年9月までに行ったものとする。                                  | 平成28年10月から平成30年9月までに制作したものとする。         |  |
| 賞の対象業績  | ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあつては全面改訂したもののみを対象とする。              |   |   |  |  |  |  | 平成30年度末に65歳以上に達している者   |
| 受賞候補者   | 著者  | 個人または組織・団体  |   |  |  | 個人   | 個人または組織・団体                             | 個人   |
| 推薦の方法   | 正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。 | 正会員および名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構CPD運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。 | 正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。                     |  | 正会員および名誉会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。 | 正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。 | 正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。 | 正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。                             |
| 選考の方法   | 学会賞選考委員会において行う  |   |   |  |  |  |  |  |
| 賞の決定    | 理事会において行う   |   |   |  |  |  |  |  |
| 表彰      | 平成31年度農業農村工学会大会講演会において会長が授与する   |   |   |  |  |  |  |  |
| 推薦締切    | 平成30年10月末日  |   |   |  |  |  |  |  |
| 推薦書の提出先 | 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛                      |   |   |  |  |  |  |  |

### 研究部会長の交代について

平成30年4月1日付で下記研究部会長が交代しました。

記

畑地整備研究部会

新部会長 宮本 輝仁 (農研機構農村工学研究部門畑整備ユニット長)

旧部会長 原口 智和

農地保全研究部会

新部会長 中野 拓治 (琉球大学教授)

旧部会長 佐藤泰一郎

水文・水環境研究部会

新部会長 黒田 久雄 (茨城大学教授)

旧部会長 堀野 治彦

### 第42回「水の週間」水のワークショップ・展示会について (第1報)

「水のワークショップ・展示会」は例年同様「水の週間」のイベントの一つとして行われます。

今年も昨年までと同様に、農業農村工学会が農業用水展示実行委員会を組織し、関係団体の協力を得て、農業用水分野として展示の準備を進めております。昨年と同様に東京国際フォーラムで開催される丸の内キッズジャンボリーのイベントの一つとして出展します。

多くの方のご来場をお待ちしております。

詳細は次号でお知らせします。

記

1. 会 期 平成30年8月14日(火)～16日(木)
2. 場 所 東京国際フォーラム G棟701
3. 主 催 国土交通省、東京都、水の週間実行委員会

### サマーセミナー2018参加者募集!

平成ラストの若手交流、話したいことを話そう～日本の農業とセミナーの今後～

はじめまして、農業農村工学サマーセミナー実行委員会です! サマーセミナーは農業農村工学を学ぶ学生・若手研究者間の交流の活性化を目的とした学生主催のセミナー企画です。

1997年から重ねて19回目となる今年は、平成も今年で最後ということで、「平成ラストの若手交流、話したいことを話そう～日本の農業とセミナーの今後～」というテーマを設定しまし

た。セミナーではグループディスカッション、現地見学や講演会など、参加者のみなさんが楽しんで学習、交流できる企画を考えています。今年の農業農村工学会大会講演会は平成最後の大会です。ぜひ、平成生まれの学生みんなで集まって、農業農村工学やそれに関わる大学での生活などについて話し合ってみませんか？

他大学の学生と議論をしてみたい方、将来のキャリアを見据え人脈を広げたい方、あるいは進路について相談したい方など、どんな方でも大歓迎です。同じ農業農村工学を学ぶものとして、私たちが実現したい未来について一緒に考えましょう！

### 1. 主催

農業農村工学サマーセミナー実行委員会

浅田洋平（東京大学大学院農学生命科学研究科）

田中宣多（京都大学大学院農学研究科）

松田壮顕（京都大学大学院農学研究科）

辰野宇大（東京大学大学院農学生命科学研究科）

東海林 光（宇都宮大学大学院農学研究科）

大山幸輝（鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科）

前田 顕（宮崎大学大学院農学研究科）

尾関竣哉（大阪府立大学大学院生命環境科学研究科）

関本幸一（北海道大学大学院農学院）

吉山憶良（北海道大学大学院農学院）

2. 日時 平成30年9月6日（木）大会講演会終了後  
～8日（土）昼過ぎ

3. 開催地 京都府内（京都大学周辺を予定）

4. 対象 学部学生・院生・若手研究者

5. 参加費用 15,000円程度を予定（宿泊、飲食代込）

6. 詳細・参加申込み

以下のホームページにて随時公開予定です。

URL：<http://nsumsemi.wp.xdomain.jp/>（6月上旬に更新予定）

7. 問合せ先

Email：[n.n.summer.seminar@gmail.com](mailto:n.n.summer.seminar@gmail.com)

## 「送料」および「振込手数料」のご負担について

宅配便や郵便の料金値上げに伴い、従来学会負担としていた以下の「送料」および「振込手数料」について、平成30年8月1日からご購入者の負担とさせていただきます。皆様には、ご負担をおかけしますが、ご理解をお願いいたします。

①学会が発行する刊行物の「送料」の一部負担

・購入図書1冊につき

送料200円（600円を上限とする）

ただし、代金引換の場合は送料の実費を負担いただきます。

②技術者継続教育機構が発行する次の代金の「振込手数料（送金手数料）」

・CPD取得証明書

・再発行のCPD個人登録者証

## 平成30年度 JABEE 農学系分野審査講習会への参加者募集（再）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



JABEE に対する農学関係者の一層の理解と JABEE プログラム修了者を受け入れる側の理解と協力を得るため、農学関係学協会が共同で講習会を開催いたします。多くの皆様の参加を期待しております。奮ってご参加ください。なお、本講習会は JABEE 公認で、講習会の参加修了者は JABEE 審査員候補者として登録され、本審査のオブザーバー参加を経て審査員の資格が得られます。

1. 日時 平成30年6月30日（土）9：45～17：30  
（情報交換会 17：30～）

2. 会場 東京大学弥生講堂アネックスまたは一条ホール  
（東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学農学部内）

3. 主催 （公社）農業農村工学会、（公財）農学会、（一社）森林・自然環境技術者教育会、（公社）日本生物工学会

4. 参加費 3,000円（当日、現金で支払い）  
情報交換会費：2,000円（当日、現金で支払い）

5. 申込先 農業農村工学会事務局 花塚あて  
E-mail：[hanatsuka@jsidre.or.jp](mailto:hanatsuka@jsidre.or.jp)

6. 申込締切 平成30年6月15日（金）

7. プログラム（案）

9：00～ 受付開始

9：45～9：50 オリエンテーション（スケジュールの説明）

9：50～10：00 開会の挨拶

10：00～11：00 JABEE 認定制度および技術士制度との関係

11：00～11：50 JABEE 認定基準の解説  
（昼食）

13：00～14：10 認定・審査の手順と方法、審査手引きの解説

14：10～14：40 自己点検書の作成について

14：40～14：55 Eラーニングの方法と活用の説明  
（休憩）

15：10～16：10 実地審査について

16：10～17：30 質疑応答

17：30～ 情報交換会

動画募集中！ こりゃ映像！ 2018 —ミニ動画コンテスト—

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

平成30年度のテーマは「私のかんがい施設遺産（仮）」です。「かんがい施設」とは、農地に水を配るために使われている施設で、ため池や水路、堰などです。私たちの周りには、歴史あるかんがい施設が今も変わらず使われ続けています。中でも、世界に誇るかんがい施設として27カ所のかんがい施設が「世界かんがい施設遺産」に登録されています。

今年のこりゃ映像では、そのような「世界かんがい施設遺産」を代表とする身の回りの歴史あるかんがい施設を対象に動画を募集したいと思います。身の回りの歴史あるかんがい施設の魅力を60秒に込めてYouTubeにアップロードしてください。

1. 平成30年度のテーマ 「私のかんがい施設遺産（仮）」
2. 動画の制限時間 60秒以内
3. 応募締切 平成30年7月31日（火）17時
4. 応募資格 なし（どなたでも応募できます）
5. 応募方法 動画をYouTubeへ指定されたタグを付けてアップロードする。
6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。
7. 賞金 最優秀賞（1作品）2万円

優秀賞（2作品）各1万円

8. アップロード方法

- ① 動画を作成する。
- ② YouTubeにアップロードする。
- ③ タグに3つのワード（jsidre2018, こりゃ映像, 私のかんがい施設遺産）を入れる。
- ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
- ⑤ 下記の情報を広報委員会動画WT（jsidre.eizo@gmail.com）宛にメールで送る。

入賞賞金をお渡しするのに必要な情報（氏名、年齢、性別、所属、連絡先、YouTube動画のURL）

9. こりゃ映像2017 結果（テーマ：農業用水）

最優秀賞：【農業用水】人と自然の力

弘前大学農学生命科学部地域環境工学科4年 山口裕里絵  
[https://www.youtube.com/watch?v=y5J1-Ox\\_S7A](https://www.youtube.com/watch?v=y5J1-Ox_S7A)

優秀賞：私の町の農業用水

岩手大学農学部農学生命課程3年 瀧田耀平  
<https://www.youtube.com/watch?v=owtqvopLgzA>

優秀賞：こりゃ映像2017 金沢工業大学 徳永研究室

金沢工業大学 徳永研究室修士1年 笹原弘道  
<https://www.youtube.com/watch?v=uP0Ra69-BRo>

学生会員入会時の特典について

農業農村工学会では、従来から行っていた入会時特典のハンドブック3点セット（ハンドブック＋用語事典＋初年度会費）に加えて、次の入会時特典を新たに設けることといたしました。これから学生会員として入会をお考えの学生の皆様、是非ご利用ください。

①ハンドブック3点セット

（ハンドブック＋用語事典＋初年度会費）

学部生 17,000円（15,750円）

大学院生 19,500円（16,750円）

②必携3点セット

（必携＋用語事典＋初年度会費）

学部生 7,000円（5,750円）

大学院生 10,000円（7,250円）

③2点セット

（用語事典＋初年度会費）

学部生 5,000円（3,750円）

大学院生 8,000円（5,250円）

（ ）内の金額は、10月1日以降入会の場合。

なお、用語事典を購入した学生会員に限り、用語事典の内容をスマートフォンなどで閲覧可能なサービスを提供いたします。

ハンドブック：改訂七版農業農村工学ハンドブック

必携：資格試験のための農業農村工学必携（第二版）

用語事典：改訂5版農業土木標準用語事典

問合せ先（公社）農業農村工学会 図書係

E-mail：suido@jsidre.or.jp

平成30年度「研究グループ」への助成希望者募集について（再）

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則1件20万円程度、3件以内です。

本年度の申請締切は、平成30年6月29日（金）ですので、

助成金を希望される方は期限までに、所定の様式（学会ホームページ参照）で研究委員会委員長あてにお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

### 「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
3. 助成：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。
4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。
  - (イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。
  - (ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であるこ

と。

- (ハ) 「研究グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。
  - (ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締切日に40歳未満であること。
  - (ホ) 代表者は論文集またはPWE誌の購読者（援助決定後の購読も可）であること。
5. 活動報告：助成金を受領した「研究グループ」は助成金受領後1年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。
    - 注1) 研究経過報告書の執筆に当たり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷上がり1~2ページに収まるようにまとめること。
    - 注2) 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。
      - また、得られた成果を論文集またはPWE誌に積極的に投稿すること。

## 平成30年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について（再）

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60万円程度（原則1件20万円以内）です。

本年度の申請締切は平成30年9月14日（金）です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式（末尾参照）で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あてにお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

### 「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「戦略的研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成するグループと金額を決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。
3. 助成：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先す

る。

4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。
  - (イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。
  - (ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。
  - (ハ) 代表者は論文集またはPWE誌の購読者（援助決定後の購読も可）であること。
5. 活動報告：助成金を受領した「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。
  - また、得られた成果を論文集またはPWE誌に積極的に投稿すること。

### 「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成30年9月14日（金）

申込先：研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail：tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG名(または部会名) (2) 代表者名・所属 (5) 研究の目的と内容(500字程度)  
 (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名(仮) (6) 研究資金申請応募先(予定)

**「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い**

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

**個人会員一口 5,000円(何口でも可)**

**法人会員一口 50,000円(何口でも可)**

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

**学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!**

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

**1. 参加資格**

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

**2. 出題内容と出題方法**

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

**3. 解答方法**

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信(事前に Web 利用登録が必要)

**4. 解答期限**

問題掲載月の月から翌月末日まで

(例：学会誌6月号掲載の問題は7月末日が解答期限)

**5. 取得できる CPD 単位**

10問正解で2cpdを、7~9問正解で1.5cpdを自動登録

(正解数6問以下の場合には CPD 単位の付与はされません。)

**6. 自動登録の時期**

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

**平成 31 年の学会誌表紙写真の募集**

学会誌企画・編集委員会では、平成31年発行の学会誌も引き続き学会員の皆さまからの写真を基本に表紙を飾ることとします。なお、平成30年発行までの本趣旨を若干変更いたしましたので、趣旨を参考に魅力ある写真をふるってご応募ください。

**趣 旨**

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は稲作農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業(水利)施設は、水田を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の食生活と文化などを支えてきました。こ

れらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然、地勢や地形に溶け込み、地域の文化を育み農村地域の景観を形成する重要な構成要素となっています。人々の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで

また、現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業(水利)施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の形態も変化してきています。さらに、日本の農業農

村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物（国外においては日本の関連技術が適用された事例）の匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観の美しさを再評価いただいて、広く学会員にご紹介ください。

#### 記

#### 1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：先人たちや現代の技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美」

#### 2. 対象巻号 学会誌第87巻（平成31年1～12月号）

#### 3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（プリントは「写真用紙—フォトペーパー／滑面タイプ」を使用してください。四つ切りワイド、A4サイズも含まれます）。なお、六つ切りは203×254mm、四つ切りは254×305mm、同ワイドは254×356mm、A4は210×297mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。一点につき5MB以下とし、これを超えるものはCDまたはDVDにて送ってください。形式はJPEGのみに限定します。

#### 4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

#### 5. 締切 春季 平成30年6月30日

夏季 平成30年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したのものに限ります。

#### 6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

#### 7. 結果発表

学会誌第87巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成31年度大会講演会会場内でパネル展示します。

#### 8. 謝礼

採用作品には規定の賞金（1点につき1万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

#### 9. 「Cover History（表紙写真由来）」執筆について

採用作品の応募者には、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」としてご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが別途原稿料をお支払いします。

#### 10. 著作権・出版権

採用作品の著作権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

#### 11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

#### 12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

#### 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

#### 学会誌第86巻の小特集のテーマ

| 小 特 集 テ ー マ                             | 要 旨 締 切<br>(A4判1,500字以内) |
|---|--------------------------|
| 第86巻第7号 近畿の農村振興事業と京都支部賞研究紹介（大会特集号）      | 公募なし                     |
| 8号 湖沼の水環境と農業とのかかわり（仮）                   | 公募終了                     |
| 9号 明治150年と農業土木（仮）                       | 公募終了                     |
| 10号 SDGsと農業農村工学（仮）                      | 公募終了                     |
| 11号 中山間地域の将来を見据えて（仮）                    | 6月25日                    |
| 12号 水田圃場を「フル」に活用するためのビジョンとそれを支える技術開発（仮） | 7月25日                    |



今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4  
 (公社)農業農村工学会  
 農業農村工学会誌企画・編集委員会あて  
 TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494  
 E-mail: henshu@jsidre.or.jp

### 第86巻第11号テーマ「中山間地域の将来を見据えて」(仮)

多様で特色のある中山間地域の農業は、全国の耕地面積の約4割、総農家数の約4割を占めるなど、日本農業の中で重要な位置を占めていることから、中山間地域等直接支払制度などを通じた政策的支援がなされており、その効果を上げている地域が全国に存在します。一方で、生きがい・やりがいとして補助金などの制約を受けない農業を営みながら、先祖代々の土地を守っている人々も多くいます。小・中・高校生や都市住民、障がい者などへの農業体験機会の提供、女性グループによる農家レストランや直売所の経営、SNSなどを利用した農家民宿や民泊のプロモートなど、教育・福祉・観光の側面からの取組みも全国各地にみられます。

条件的に有利な平地の農業には産業として成立させるために強い農業を目指すという明確な将来像があります。一方、多様な取組みがなされているとはいえ、中山間地域といった条件不利地域で集落を維持し、活力ある地域を持続させていくために

は、長期的な視野に立った対策を今から始めなければなりません。比較的近い将来については、「小さな拠点」などのビジョンはあるにせよ、30年・50年後を見据えた将来像はあまり明確にされておらず、中山間地域の住民は先行きが見通せない状況で不安を抱えているのが現状ではないでしょうか。またこれら地域への息の長い政策的支援をするためには、その必要性を訴求するメッセージを一般国民に向け広く伝えていく努力も払われねばなりません。

学会誌第86巻第11号では、①10年後といたした今の延長線上で考えられる近未来の中山間農村の将来像とともに、②30年後・50年後の農村や地域のあるべき姿や、③中山間地域を継続的に支援していくため国民に知ってもらわなければならないことや伝えていくべきメッセージ、④これらのために農業農村工学が貢献できることについて、広く会員の皆様から報文を募集します。

### 第86巻第12号テーマ「水田圃場を『フル』に活用するためのビジョンとそれを支える技術開発」(仮)

世界の食料需要は、人口増加と食生活の変化に伴って2050年には約69億tまで増加する見通しであり、生産単収の伸び率の鈍化や地球環境の変化による生産量低下のリスクから、国際的な食料争奪が懸念されています。

一方、わが国では人口減少・高齢化などにより主食用米の需要が減少する中、米政策の改革を着実に進め、農業経営体が自らの経営判断に基づき作物を選択できる環境を整備するため、平成30年度産米からは生産調整が廃止されることとなりました。

このような現状の中で、日本農業の基盤である水田での生産を維持し、米を安定的に供給することに加え、食料自給率・自給力を向上させ、多面的機能の維持強化を図る必要があります。水田での生産物である米のおいしさや安心・安全を確保しつつ、水稲作の省力化・低コスト化を進めるほか、麦・大豆・

飼料作物などの主食米以外の生産により水田を最大限に有効活用(フル活用)することも求められています。

これらの取組みには、水田の大区画化、排水改良や地下水位制御システムなどを利用した水田の汎用化・高機能化、ICTなどを活用した水管理・営農の省力化、コスト低減、気候変動への対応、多面的機能強化などに関するさらなる技術開発とその導入が求められます。また、そのためのビジョンの作成や、こうした取組みを支える農業者への支援も欠かせません。

そこで本小特集では、水田圃場を「フル」に活用するためのビジョンや技術の紹介、その取組み事例や課題、展望、調査や研究の成果、最新技術の開発について、事業主体、行政、大学、研究機関、開発事業者およびメーカーなどから広く報文を募集いたします。

### 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2016年7月から2018年6月までの編集事務局について

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関

わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅

広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また, 世界 14 カ国から Editor (20 名) を選出することにより, 国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし, さらに国際的な流通を考慮して, 国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は, Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

一方, 2016 年 7 月から, 新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

#### 編集体制

- ・ Editor-in-Chief : Dr. Takao MASUMOTO (Japan)  
Faculty of Bioresource Science, Akita Prefectural University, Akita, Japan
- ・ Editors 14 カ国から 20 名
- ・ Advisory Editing Board 29 名
- ・ Chief Management Editor  
Dr. Yu-Pin LIN  
Department of Bioenvironmental Systems Engineering,  
National Taiwan University, Rep. of China
- ・ Managing Editors  
Dr. Jin-Yong CHOI  
Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul  
National University, Korea  
Dr. Chihhao FAN  
Department of Bioenvironmental Systems Engineering,

National Taiwan University, Rep. of China

Mr. Nobuyoshi FUJIWARA

Rural Development Division, Japan International  
Research Center for Agricultural Science (JIRCAS),  
Japan

Dr. Kimihito NAKAMURA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

Dr. Andrew WHITAKER

Graduate School of Science and Technology, Niigata  
University, Japan

編集事務局 (2016 年 7 月から 2018 年 6 月まで) :

・ Dr. Yu-Pin LIN

Distinguished Professor, Ph.D.

Department of Bioenvironmental Systems, Engineering,  
National Taiwan University

No.1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei 10617, Taiwan,  
Rep. of China

TEL : + 886-2-3366-3467, + 886-2-2368-6980

FAX : + 886-2-2368-6980

E-mail : yplin@ntu.edu.tw

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年 4 回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員 (院生含む) 8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は, まず農業農村工学会にご入会の上, お申し込みください。

なお, オンラインジャーナルへの完全移行に伴い, 2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になります。

冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局

### 平成 30 年度東北支部総会・第 60 回東北支部研究発表会ならびに 第 50 回東北支部研修会・第 40 回地方講習会の開催について (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期 日 平成 30 年 11 月 1 日 (木), 2 日 (金)
2. 会 場 大手門パルズ  
〒990-0044 山形市木の実町 12-37  
TEL : 023-624-8600
3. プログラム概要 (案)  
[第 1 日目] 11 月 1 日 (木)
  - (1) 支部総会・研究発表会
  - (2) 情報交換会

- [第 2 日目] 11 月 2 日 (金)
- (3) 支部研修会・地方講習会

4. 問合せ先  
〒997-8555 鶴岡市若葉町 1-23  
山形大学農学部食料生命環境学科 石川まで  
Email : [ishikawa@tdsl.tr.yamagata-u.ac.jp](mailto:ishikawa@tdsl.tr.yamagata-u.ac.jp)

5. その他  
詳細は本誌 7 月号に掲載予定です。

第 69 回関東支部大会の開催について (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 日 時

支部大会講演会, 講習会, 情報交換会  
平成 30 年 11 月 7 日 (水) 時間未定

原稿締切日:平成 30 年 8 月 24 日 (金)

講演申込み希望者は、「講演者所属および氏名」,「演題 (仮題でも可)」,「講演要旨 (200 字以内)」を明記のうえ, 下記事務局までお申し込みください。

2. 場 所

支部大会講演会, 講習会, 情報交換会  
ベルクラシック甲府  
〒400-0031 山梨県甲府市丸の内 1-1-17  
TEL : 055-254-1000

4. 問合せ先 (事務局)

山梨県農政部耕地課技術管理担当 志村, 今村  
〒400-8501 山梨県甲府市丸の内 1-6-1  
TEL : 055-223-1627 FAX : 055-223-1624  
E-mail : kouchi@pref.yamanashi.lg.jp

3. 参加申込み

- (1) 講演会, 情報交換会  
参加申込締切日:平成 30 年 8 月 31 日 (金)
- (2) 講演申込み  
申込締切日:平成 30 年 8 月 3 日 (金)

imamura-ammw@pref.yamanashi.lg.jp

5. その他

詳細は本誌 7 月号に掲載予定です。

第 75 回京都支部研究発表会の開催について (第 2 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 研究発表会

- (1) 日時 平成 30 年 11 月 7 日 (水) 10 : 00 ~ 17 : 00  
(受付開始 9 : 00 ~)
- (2) 場所 ウィンクあいち (愛知県産業労働センター)  
〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅 4-4-38  
TEL : 052-571-6131 FAX : 052-571-6132
- (3) 会場までのアクセス  
  - (JR・地下鉄・名鉄・近鉄) 名古屋駅より
  - ◎ JR 名古屋駅桜通口からミッドランドスクエア方面 徒歩 5 分
  - ◎ ユニモール地下街 5 番出口 徒歩 2 分
 ※名駅地下街サンロードからミッドランドスクエア, マルケイ観光ビル, 名古屋クロスコートタワーを経由 徒歩 8 分

③連名者名, 所属, 年齢, ④希望発表部門 (水理, 水文・気象, 土壌物理, 土質力学, 応用力学, 材料・施工, 施設管理・更新, 灌漑排水, 農地造成・整備・保全, 農村計画, 環境保全, 生態環境, 地震・その他), ⑤発表者の連絡先電話番号, ⑥発表者のメールアドレス。なお, 件名を「発表申込み」としてください。  
〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577  
三重大学大学院生物資源学研究所共生環境学専攻  
渡辺晋生  
E-mail : kunio@bio.mie-u.ac.jp TEL : 059-231-9583

2. 情報交換会

- (1) 日時 平成 30 年 11 月 7 日 (水)
- (2) 会場 ウィンクあいち (愛知県産業労働センター)

3. 現地研修会

- (1) 日時 平成 30 年 11 月 8 日 (木)
- (2) 内容  
現地研修会のコース等, 内容は決まり次第, 農業農村工学会ホームページ内の京都支部ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/kyoto/>) にてお知らせいたします。

5. 投稿原稿申込み

- (1) 原稿投稿先および期限  
平成 30 年 7 月末日までに, 研究発表の申込みをされた方は, 投稿要領に基づき作成した原稿 (PDF もしくは MS ワード) と投稿票 (MS エクセル) を, 電子メールで三重大学・渡辺までご送信ください。投稿票は, 京都支部ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/kyoto/>) よりダウンロードしてください。  
※申込みは, 電子投稿のみで結構です。受信時に事務局より受信確認メールを返信いたします。
- (2) 投稿要領
  - ・発表者は学会員に限らない。ただし, 連名者に少なくとも 1 名は学会員が含まれること。
  - ・投稿要領および原稿の書式については, 京都支部ホームページ内の「発表申込票 (投稿票) と投稿要領」 (<http://www.jsidre.or.jp/kyoto/>) を参照してください。
  - ・原稿の枚数は図面を含めて 2 枚とします。
  - ・発表時間は 12 分 (質疑応答は 3 分) です。
  - ・原稿はそのまま印刷しますので, 鮮明なものを提出して

4. 研究発表申込み

平成 30 年 6 月末日までに, 発表希望者は投稿原稿に先立ち, 以下の情報を簡条書きにした電子メールを三重大学・渡辺にご送付ください。①表題 (仮題でも可), ②発表者名, 所属, 年齢,

ください。

- ・発表の補助道具としてパソコン（OSはWindows7、ソフトはPowerPoint）を準備します。
- ・データはCD-R、USBメモリーをご用意ください。

## 6. 参加申込み

### (1) 参加申込み

参加申込みは、(株)日本旅行を通じて行います。農業農村工学会ホームページ内の「京都支部研究発表会の開催について」(<http://www.jsidre.or.jp/shibu/>)にアクセスし、(株)日本旅行申込み専用メールアドレス(nogyo\_aichi@nta.co.jp)へご送信ください。

### (2) 申込期限 平成30年8月31日(金)

- (3) 参加費等 研究発表会 会員3,000円 非会員4,500円  
情報交換会 5,000円  
現地研修会 3,000円(学生は無料)

### (ア) 昼食

昼食の用意は特に学会ではしておりません。各自、会場周辺でおとりいただくようお願いいたします(受付にて、会場周辺のランチマップをお渡しします)。

### (イ) 参加費の納入

申込みを受け付けた後、(株)日本旅行より9月中に確認書・請求書を送付いたしますので、請求書記載の振込先

へ平成30年9月28日(金)までにお振り込みください。振込手数料については振込人負担をお願いします。なお、納入された参加費については、参加の有無にかかわらず返金いたしませんのでご了承ください。

### (4) 宿泊施設の斡旋

宿泊の斡旋は、(株)日本旅行を通じて行います。ご要望の方は参加申込時に、併せて申込み願います。なお、客室数の都合上、ご希望に添えない場合がございますのでご了承ください。

## 7. 参加申込み・問合せ先

(株)日本旅行「第75回農業農村工学会京都支部研究発表会」担当

〒460-0008 名古屋市中区栄2-11-30

TEL: 052-232-6710 (直) FAX: 052-232-6711

E-mail: nogyo\_aichi@nta.co.jp

営業時間: 平日9:30~17:30 (土日祝日定休)

## 8. 開催地事務局

愛知県農林水産部農林基盤局農地計画課内

第75回農業農村工学会京都支部研究発表会 開催地事務局

担当 中根、佐藤、熊谷

TEL: 052-954-6431 FAX: 052-954-6935

E-mail: yuri\_kumagai@pref.aichi.lg.jp

## 第73回中国四国支部講演会ならびに第42回地方講習会の開催について (第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



### 1. 支部講演会

開催日: 平成30年10月18日(木)

会場: くにびきメッセ

〒690-0826 鳥根県松江市学園南1-2-1

TEL: 0852-24-1111 FAX: 0852-22-9219

### 2. 情報交換会

開催日: 平成30年10月18日(木)

会場: 未定

### 3. 地方講習会

開催日: 平成30年10月19日(金)

会場: くにびきメッセ

### 4. 問合せ先

※参加申込窓口と原稿提出窓口を別にしてしますので、ご注意ください。

### (1) 講演会・情報交換会・講習会申込窓口・問合せ先

鳥根県農林水産部農村整備課 綿貫・福島・竹谷

〒690-8501 鳥根県松江市殿町1

TEL: 0852-22-5142 FAX: 0852-31-6274

E-mail: nouson@pref.shimane.lg.jp

### (2) 講演会発表原稿提出窓口・問合せ先

鳥根大学生物資源科学部 深田耕太郎

〒690-8504 鳥根県松江市西川津町1060

TEL: 0852-32-6550

E-mail: fukada@life.shimane-u.ac.jp

### 5. 詳細

講演会・情報交換会および地方講習会の詳細については、本誌7月号以降に掲載予定の第2報でお知らせします。

## 土壌物理研究部会第57回研究集会の開催について (第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



### 1. 主催 農業農村工学会土壌物理研究部会

共催 土壌物理学会

### 2. 日時 平成30年10月26日(金) 13:00~17:00

\*情報交換会は翌日開催の土壌物理学会と共催

### 3. 場所 北海道大学農学部4階大講堂

[https://www.hokudai.ac.jp/introduction/160812sapporao\\_can\\_map.pdf](https://www.hokudai.ac.jp/introduction/160812sapporao_can_map.pdf)

### 4. 会場への交通手段

・新千歳空港から

JR「新千歳空港駅」より快速エアポートで「札幌駅」にて下

車 (約 40 分)。

・JR 札幌駅から

西口改札口を通り、札幌駅北口方面へ出る。徒歩で農学部まで 1.0 km (約 15 分)。タクシーで農学部まで約 10 分。

5. 参加費 1,500 円 (要旨集代, ただし学生は無料)

6. 研究集会テーマ 土壌環境と気候変動 (仮)

7. プログラム

総合司会: 徳本家康 (佐賀大学農学部)

13:00 受付

13:30 開会

13:40~14:30

「気候変動が農地土壌の物理環境に及ぼす影響の予測 (仮)」 弘前大学 加藤千尋

14:40~15:30

「大気 CO<sub>2</sub>濃度の増加と温暖化が農耕地からの温室効果ガス排出におよぼす影響 (仮)」

農研機構 常田岳士

15:40~16:30

「気候変動の影響を考慮した今後の治水に関する取り組み (仮)」 北海道大学大学院工学研究院 山田朋人

16:30~16:50 質疑応答

17:00 閉会

8. その他

・宿の予約は個別に手続きをしていただきますようお願いいたします。時節柄混み合うことが予想されています。できるかぎり早めの予約手続きをお願いいたします。

\*都合により一部変更することがあります。

9. 申込み・問合せ先

農業農村工学会土壌物理研究部会事務局

〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町 1

佐賀大学農学部生物環境科学科 徳本家康

TEL: 0952-28-8755 E-mail: yasu@cc.saga-u.ac.jp

http://www.jsidre.or.jp/dojou/

## 農地保全研究部会第 39 回研究集会および現地研修会の開催について (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農地保全研究部会は、農地保全に関する基礎的な研究と応用に関する総合的な研究を行うことにより、農業農村工学分野の学術・技術の振興と社会の発展に寄与することを目的としています。そこで、本年度は「未来に繋ぐ農業農村の新しい整備・保全の取り組み (案)」をテーマとして、亜熱帯島嶼地域である沖縄の農村農地の整備・保全と先進的地域資源活用、激甚化する自然災害の予防軽減取組みや発災後対応などの学術報告と討論を通じ、参加者の知見を広げ、今後の農村農地の整備・保全に係る教育、研究および行政施策の新たな展開につながることを期待して、講演ならびに総合討論を行います。

1. 主催 農業農村工学会農地保全研究部会

共催 沖縄県農村振興技術連盟

後援 (予定) 内閣府沖縄総合事務局, 沖縄県, 水土里 ネットおきなわ, 沖縄斜面調査研究会, 琉球大学

2. 日時 (予定)

(1) 研究集会 平成 30 年 11 月 8 日 (木) 13:00~17:00

(2) 情報交換会 平成 30 年 11 月 8 日 (木) 18:00~19:30

(3) 現地研修会 平成 30 年 11 月 9 日 (金) 8:30~17:00

3. 場所

(1) 研究集会 沖縄県立博物館 (那覇市おもろまち)

(2) 情報交換会 内閣府沖縄総合事務局食堂

(那覇市おもろまち)

(3) 現地研修会 沖縄本島

海洋王国として栄えた琉球の歴史・文化・風土にふれながら、自然豊かなわが国唯一の亜熱帯島嶼部地域における農地保全について案内するとともに、沖縄県における農地保全と地域資源の活用による先進事例や自然災害への予防・減害に向けた取組みを紹介予定。

4. 研究集会テーマ 未来に繋ぐ農業農村の新しい整備・保全の取り組み (案)

5. 問合せ先

農地保全研究部会第 39 回研究集会および現地研修会運営事務局

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎 1-2-2

沖縄県農林水産部村づくり計画課 担当: 仲村, 佐久本

E-mail: skmotohr@pref.okinawa.lg.jp

TEL: 098-866-2263 FAX: 098-866-0557

6. その他

日程の詳細や講演者、参加申込方法などの実施要領については、今後、本誌に掲載予定です。また、農地保全研究部会ホームページも併せてご確認ください。